

教科名（ 国語 ）

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
古典	2 単位	2 学年 1～6 組 (全クラス)	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本と中国の古典的名作を読み、固有の情緒や、描かれた文学的世界を味わう。②歴史的仮名遣いを完全に修得し、古典的語彙を豊かにする。③古典文法の基本を学習する。 ③書き下し文、句法等漢文の基礎を学習する。④日本と中国の古典の面白さを発見する。
使用教科書・副教材等	第一学習社『標準古典』 東京書籍『新総合図説国語』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現
第 1 学 期	「大江山」 （『古今著聞集』） 「平中が事」 （『古本説話集』） ・脚注を参考にしながら口語訳をする。 ・内容の面白さを理解する。 ・用言の終止形を、しっかり学習する。	4 ・ 5	・各説話の主題を考えた上で、それぞれの面白さを味わう。 ・作品の生み出された時代背景を考える。 ・登場人物の関係、また、それぞれの感情を理解する。 ・古典文法の基礎として、用言を学び、活用形を学習する。		第 1 学 期 中 間 考 査	○			○
	「かぐや姫の昇天」 （『竹取物語』） ・用言の活用 ・動詞・形容詞・形容動詞の特質を学ぶ。 ・それぞれの活用形を覚える。 ・口語訳をする。 ・作品の面白さを味わう。	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・生徒に親しみのある作品を用いて、用言の学習の基礎を学ぶ。 ・脚注と文法知識を活用して、口語訳を試みる。 ・登場人物の心情を理解する。		第 1 学 期 期 末 考 査	○			○
第 2 学 期	「故事・寓話」 『刻舟求剣』 『朝三暮四』 『病入膏』 『画竜点睛』 『推敲』 ・訓点の働きを理解する。 ・原文を書き下し文に直す。 ・難しい熟語の意味を調べる。 ・全体を訳す。	9 ・ 10	故事・寓話を学ぶ ・レ点、一二点を中心として、訓点の働きを理解する。 ・しっかりと書き下し文に直し、話の展開を理解する。 ・内容の面白さを理解する。		第 2 学 期 中 間 考 査	○	○		○

	『徒然草』 「公世の二位のせうとに」 「相模守時頼の母は」 「吉田と申す馬乗り」 「よろづのことは頼むべからず」 ・動詞・形容詞・形容動詞、それぞれの活用形を答える。 ・口語訳をする。 ・作品の面白さを味わう。	10 ・ 11 ・ 12	・作品の中にある風刺を読み取る。 ・現代にも通じる批評精神を学ぶ。 ・文に頻出する用言について知的理解を深める。		第2学期期末考査	○			○
第3学期	『更級日記』 「門出」 「源氏の五十余巻」 「鏡のかげ」 ・難しい語句を辞書で調べる。 ・文法知識を活用して、口語訳をする。 諸家の思想 論語 韓非子 ・通読し、大意、筋の展開を追う。	1 ・ 2 ・ 3	・日記に記載された事実から、書き手の人柄や心情を読み取る。 ・平安貴族の知性に触れる。 ・作品を通して、古典世界の人情、振る舞いを学び、味わう。 ・中国の思想の系統について、その概略を学習する。 ・論旨を明らかにし、比喩の巧みさ、説得の巧みさを読み取る。		学年末考査	○	○		○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で使用了すべてのプリント。ノート。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査(約70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約30%) 1・2・3学期の成績の出し方は内規通り。									